

看護師たかこの

すこやか生活

2019年9月

今年の夏休みはいかがでしたか？親にとっては、「1日中子どもが家にいて、たいへんだった」という人。中には、いろいろなことを子どもと一緒に体験したり出会いがあったり、「いい思い出ができた」という人もいるでしょう。2学期は楽しい行事がいっぱいあり、思い出がたくさんできます。「行事」は教育的に体験させることです。「体験」は、自分の身体を通して学ぶことで、今後生きていくうえで役立ちます。

私は今年の夏はいろいろな体験と出会いをしました。7月に礼文島、利尻島、そして知床へ行ってきました。トレッキングをしながら、自然を満喫しました。きれいなかわい花をたくさん見ました。トレッキングのガイドさんからはルーペと双眼鏡を渡されました。小さな花はルーペで見ながら説明を聞きました。遠くに飛んでいる鷲、オオセグロカモメ、ウミネコは双眼鏡で見ました。知床では幹に登っているセミの幼虫を初めて見ました。13年くらい地中で過ごした幼虫が地上にでてきている姿です。その瞬間、子どものころ見た情景が思い出されました。大野町の祖母の家で蝉が羽化しているところを見たこと。私は蝉の幼虫が殻からでて成虫になるのをジーンと見ていました。何だか不思議な感じがしました。その時の感動は今でも覚えています。知床の海岸沿いでは子熊が戯れていました。イルカも何頭か見ました。自然の中に身を置くと、自然を守るのも自然を破壊するのも、人間なのだと思います。



利尻礼文で出会った若者たちは、自然を愛していました。一人は植物学を専攻したガイドで、ガイドについて学びを深めるために、10月にカナダへ行くと言っていました。働いていた人は半年礼文利尻、残りの半年は関東で仕事をしていると言っていた人もいました。実際ホテル等は半年しか営業をしていません。それでも何年もそのホテルで働いているのだそうです。

8月にはムーミン展に行きました。ムーミンの本もアニメも見ただけではありませんでしたが、仕事でフィンランドへ行った時、あちこちでムーミンをみました。日本との外交関係樹立100周年の行事としての「ムーミン展」。大分で開催されていたので、行ってきました。作者のトーベ・ヤンソンさんに魅了されました。これからムーミンを見ようと思いました。

9月に尺八奏者の若者にあいました。世界50か国以上でリサイタルを開催しているのだそうです。大分にちなんで「進撃の巨人」のテーマソングや「ふるさと」などいろいろな曲を尺八で奏でました。尺八のイメージが完全に変わりました。

思い出に残る体験や出会いは、年をとっても「その時のこと」を一瞬で思い出させたり、生きている「今」を豊かにしたり、さらに困難なことに遭遇した時に、自分を支えてくれることがあります。これからもいい体験と出会いをしたいものです。

たかこ